



(左から) 山崎真司さん、池田 佳乃子さん、長谷川 雄大さん

「鉄輪には、後継者不足によって廃業する旅館やお店が多く、空き家が増加しています。その課題をいかに解決するかということを、地域の方々と相談していました」

そこで池田さんは、2018年6月に地域の人たちや学生、地元の起業家や不動産などの専門家を交えて、ワークショップ形式の話し合いの場“鉄輪妄想会議”を開きました。“鉄輪妄想会議”では、実際に全国で同じような活動を始めている人たちをゲストに招き、各地の事例を学びながら議論を重ねたそうです。そこでなぜ、コワーキングスペースというアイデアが生まれてきたのでしょうか。

「鉄輪エリアは古くから続く湯治場ですが、その文化は時代の流れによって衰退しつつあります。そのもっとも大きな要因は、働き方の多様化です。業務の性質上、長期休暇を取りづらいという人も多く、近年は仕事と休暇を両方実現できる『ワーケーション』という働き方も浸透はじめました。このようなライフスタイルにマッチするスペースが鉄輪にあれば、働きながらの長期滞在が可能になるのではないかという意見が出てきました」と、池田さんは語ります。

このアイデアから“湯治のアップデート”をコンセプトに、元湯治宿だった空き家をコワーキングスペースにリノベーションすることが決まったのだそうです。

※ワーケーション：「仕事 (work)」と「休暇 (vacation)」を組み合わせた造語で旅行先や帰省先などでテレワークをおこなうこと。

